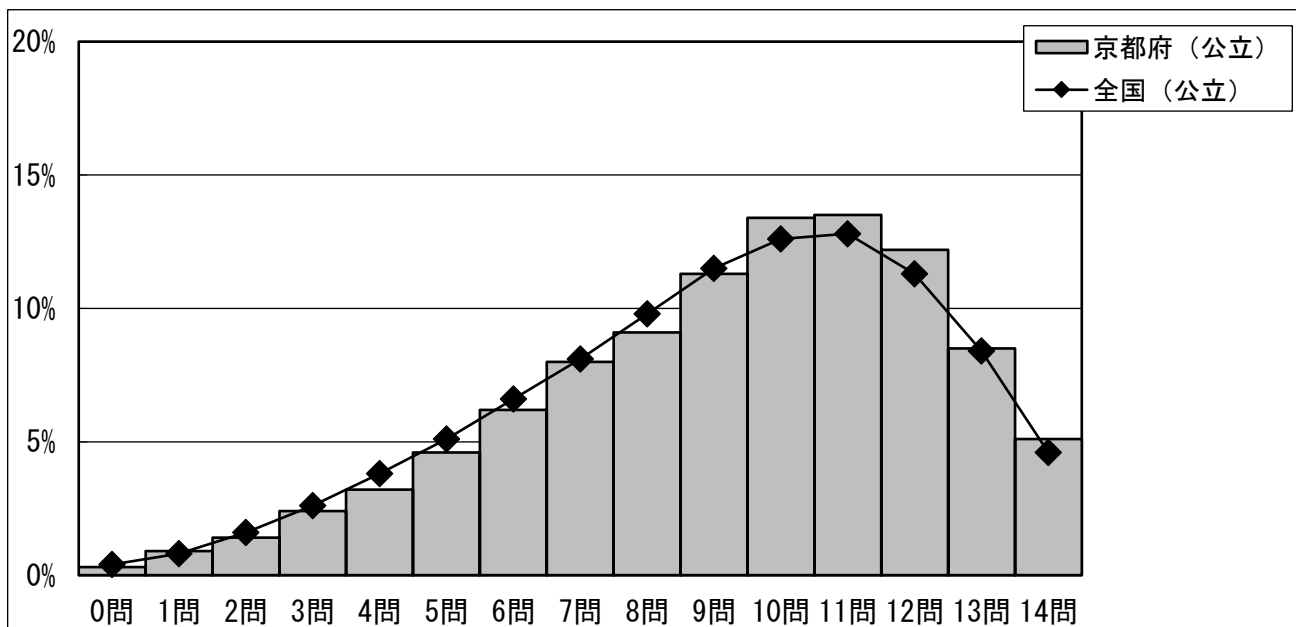


Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

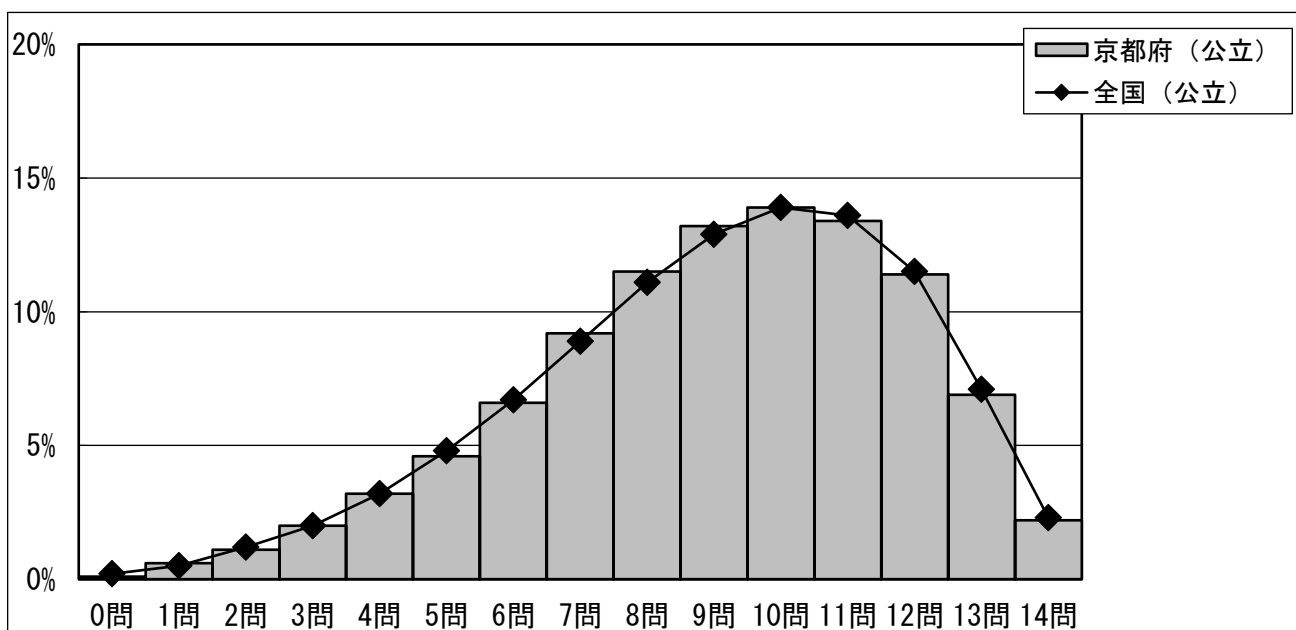
1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	9,509	9.2 / 14	66	10.0	3.0
全国	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1



2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,711	9.0 / 14	65	9.0	2.8
全国	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8



3 設問別調査結果 [国語]

小学校 [国語]

京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果

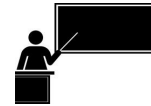
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,509	199	66
全国（公立）	993,975	18,857	64.7

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.6	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	78.1	77.8
B 書くこと		62.6	60.7	
C 読むこと		47.0	47.2	
評価の観点	知識・技能	70.6	68.3	
	思考・判断・表現	62.6	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	73.3	71.7	
	短答式	71.9	70.6	
	記述式	40.7	40.2	

◇ 「読むこと」以外の領域で全国平均を上回っている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている、もしくは同率である。

◆ 正答率が全国平均を下回った設問は3問あり、そのうち6割を下回る設問が1問ある。中心となる語や文を見つけて要約するような指導をする必要がある。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	77.8	77.0	0.3	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	74.8	74.9	0.4	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の……の部分で話す内容として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	81.7	81.0	0.3	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	読むこと	77.4	77.6	0.3	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	88.3	87.5	0.3	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	読むこと	34.5	34.4	3.9	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	読むこと	29.1	29.7	4.9	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	書くこと	66.8	64.8	1.5	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の-----部を【西田さんの話】を用いて書き直す	書くこと	58.4	56.6	7.2	9.6
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.3	78.3	6.9	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.0	54.4	12.4	14.4
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.3	79.0	4.9	6.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部イで、〰部「残されています」の主語として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.2	67.0	2.4	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部オで、〰部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	46.6	43.6	2.6	4.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を□で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を□で、表示しています。

4 設問別調査結果 [国語]

中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

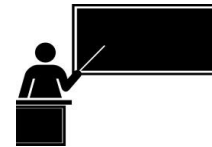
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,711	95	65
全国（公立）	903,157	9,319	64.6

分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	79.0	79.8
	書くこと	57.2	57.1
	読むこと	48.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	56.5	56.0
	話す・聞く能力	79.0	79.8
	書く能力	57.2	57.1
	読む能力	48.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	75.4	75.1
問題形式	選択式	63.5	63.9
	短答式	74.2	74.4
	記述式	56.5	56.0

◇ 学習指導要領の領域等における「話すこと・聞くこと」以外の領域で全国平均を上回っているもしくは同率である。無解答率は、全ての設問で全国平均を下回っている。

◆ 正答率が全国平均を下回った設問は7問あり、そのうち6割を下回る設問が3問ある。様々な言語活動を効果的に位置付けながら考えている理由や、意図を明確にして指導する必要がある。



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	89.5	89.7	0.1	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	92.0	92.5	0.1	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話すこと・聞くこと	55.6	57.1	2.4	3.4
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書くこと	24.0	24.8	0.2	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書くこと	75.3	74.5	7.3	8.5
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	読むこと	42.0	43.7	0.3	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	読むこと	58.8	58.7	0.3	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	読むこと	70.5	71.0	5.9	7.3
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	読むこと	22.7	20.5	20.1	24.1
4一①	漢字を読む（伸ばして）	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	97.8	97.5	1.4	1.5
4一②	漢字を読む（詳細）	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.5	88.8	2.1	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	74.0	0.9	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.2	40.3	1.0	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	書くこと	72.4	71.9	7.5	9.7

※府（京都市を除く）の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項

問題〔2二〕〔3三(1)(2)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う

〔2二〕(府の正答率 88.3%、全国の正答率 87.5%)

○漢字の書き(ころがっている)

〔3三(1)ア〕(府の正答率 79.3%、全国の正答率 78.3%)

▲漢字の書き(つみ重ね)

〔3三(1)ウ〕(府の正答率 55.0%、全国の正答率 54.4%)

◎漢字の書き(げんいん)

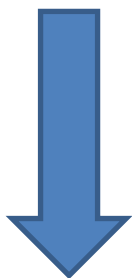
〔3三(1)エ〕(府の正答率 81.3%、全国の正答率 71.9%)

○文の中における主語と述語との関係を捉える

〔3三(2)イ〕(府の正答率 73.2%、全国の正答率 67.0%)

▲文の中における修飾と被修飾との関係を捉える

〔3三(2)オ〕(府の正答率 46.6%、全国の正答率 43.6%)



解説

- ・漢字の書き、主語と述語との関係を捉える問題については全国平均を上回っている。
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題については、全国平均を上回っているが、引き続き指導に留意が必要である。

授業改善のポイント

◎ 漢字の学習について

新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直すことや、文脈に沿って正しい漢字を書くこと、また、漢字で表現することの効果を考えさせる学習を行うようにする。

◎ 修飾と被修飾との関係を捉える学習について

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互に関連した指導を行う。単純に、被修飾語を見付ける学習ではなく、修飾語をどのように使うと相手(聞き手、読み手)に伝わりやすいかを考える学習を行うなど、修飾語の効果を考えさせることが効果的である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える

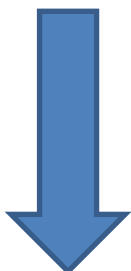
〔1ー〕(府の正答率 77.8%、全国の正答率 77.5%)

○資料を用いた目的を理解する

〔1二〕(府の正答率 74.8%、全国の正答率 74.9%)

◎目的や意図に応じ、資料を使って話す

〔1三〕(府の正答率 81.7%、全国の正答率 81.0%)



解説

「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。指導に当たっては、単に話をする、話を聞くということではなく、聞き手にはどのように伝えれば、納得してもらえるのか、ということ ICT や、資料を活用することが必要である。

授業改善のポイント

◎ 構成の検討、考えの形成(話すこと)について

話の内容が明確になるように話の構成を考える場面を設定するなど、説得力のある表現になるにはどうすべきかを考えさせる。

◎ 表現、共有(話すこと)について

音声表現の「声の大きさ」、「速さ」、「抑揚」、「強弱」、「間の取り方」だけにとどまらず、以下の例(令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例)のように ICT を用いるなどしてどうすれば自分の考えが伝わりやすくなるかに気付かせる。

資料については、集めた資料を全て使おうとする児童には、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように指導する。

Dさんが立てた課題 場面や相手を意識して、話し方について検討する

自分が話している様子と聞き手の反応や表情も確認したいな。

Dさん

話し手と聞き手の双方を動画で撮影している場面

撮影した動画を確認している場面

3 Rの説明の前はうなずいて聞いてくれているけど、3 Rの説明をしている時は、聞いている人が分かりにくそうな表情をしているね。

そうそう、確かに、その部分は分かりにくかったよ。

話すスピードが速いな。「リデュース」「リユース」「リサイクル」は、大事な言葉だし聞き間違えそうな言葉でもあるから、もっとゆっくり話してみよう。

スピーチの一部

市の環境課の方
に話をうかがった
ところ、
「リデュース」
「リユース」
「リサイクル」
の3つの取組
を進めていると
おまう進の
つ行ったこと
したので、
おまう進の
つ行ったこと
したので、
おまう進の
つ行ったこと
したので、

実際に発表する場面では、聞き手のうなずきや表情にも注意することが必要です。自分のスピーチの改善点を検討するために、話す様子や聞き手の様子を動画で撮影するなどして、振り返ることができるようにすると効果的です。

ポイント

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える

〔3一〕(府の正答率 66.8%、全国の正答率 64.8%)

▲目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

〔3二〕(府の正答率 58.4%、全国の正答率 56.6%)



解説

「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。指導にあたっては、読み手を意識させ、説得力のある文章にするにはどうするかを考えさせることが必要である。

授業改善のポイント

◎ 構成の検討について

筋道の通った文章になるようにするには、どのような論の進め方が必要かを考えさせる場面を設定するなど、説得力のある文章にするための工夫をさせる。

工夫させるためには、小学校学習指導要領解説国語編〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)力と関連付けて、「始め—中—終わり」、「序論—本論—結論」や頭括型、尾括型、双括型などの文章の組み立てや論の進め方について意識させる。

◎ 考えの形成、記述について

事実と感想、意見とを区別して書くことを意識させたり、自分の考えたことなどが客観的な事象に裏付けられているかを振り返ったり、他の児童と話し合ったりさせる。

また、理由や事例を示す表現や、考えと理由や事例のつながりについて児童自身が確認できるよう、以下の〈ワークシート例〉(令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会)を用いることも効果的である。

例

ワークシートの例

自分の考えを主張する文章を書く
めあて 説得力のある文章になるようにくわしく書く
★考えを支える理由や事例を加えて書く

【事例】

〇〇さんに聞いたこと
からです。

【理由】

なぜなら
からです。

【考え】

くわしくする

★確かめよう

【理由】

□考えを支えるものになって
いるか
□理由と分かる表現が入っているか

【事例】

□事実を書いて
いるか
□人から聞いたことや、自分の体験と分かる表現が入っているか

【全体】

□事実と感想・意見を区別して書いているか

〈書き直した文章〉
(考え、理由・事例を組み合わせる)

〇〇さんに聞いたこと
からです。
なぜなら
からです。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する

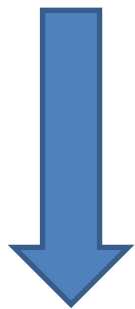
〔2一〕(府の正答率 77.4%、全国の正答率 77.6%)

▲目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける

〔2三〕(府の正答率 34.5%、全国の正答率 34.4%)

▲目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する

〔2四〕(府の正答率 29.1%、全国の正答率 29.7%)



解説

「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を下回っている。〔2三〕解答の条件として「ヒントとなったこと」については書いているが、「面ファスナーのくっつく仕組み」について記述していない児童の割合が39.4%と多かったことから、2つの必要な情報のうち、1つの情報しか取り出せていないことが課題である。〔2四〕も同様の課題が見られる。

授業改善のポイント

◎ 構造と内容の把握(説明的な文章)について

事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ要旨を捉える習慣を付ける。そのためには、文章全体を通してどのように構成されているかを捉える指導をする。

◎ 精査・解釈(説明的な文章)について

目的に応じて、文章と図表などを結び付けることを繰り返す。特に、教科書の文章だけではなく、教科書と関連した他の文章を用いるなど、普段の授業から情報を多く用いることで、必要な情報を見付ける力を養う。

図表などについて必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることができるように指導する。

また、要約する目的を意識して、内容の中心となる語や文を選んで、分量などを考えて要約することも重要である。

6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 話すこと・聞くこと

問題〔1一〕〔1二〕〔1三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎話合いの話題や方向を捉える

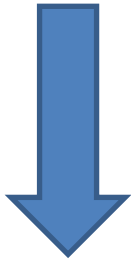
〔1一〕(府の正答率 89.5%、全国の正答率 89.7%)

◎質問の意図を捉える

〔1二〕(府の正答率 92.0%、全国の正答率 92.5%)

▲話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える

〔1三〕(府の正答率 55.6%、全国の正答率 57.1%)



解説

「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均を下回っている。特に〔1三〕については、55.6%と低い正答率となっている。問題の条件2に答えられていない生徒が24.9%いることから、指導に当たっては、話し合うとき、話題や展開を捉えさせることが必要である。

授業改善のポイント

◎ 話合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)について

話合いのどの段階でも話題を意識しながらその経過を捉えられるような工夫が必要である。例えば、以下の例(平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例)のように話合いの様子を動画撮影し、振り返らせることなどが考えられる。

授業アイデア例

- 1 話合いの様子を記録した動画を見て、課題を把握する。
身近な話合いの動画(ここでは、「文化祭のオープニングは何を行うか」をテーマにした文化祭実行委員の話合いの様子の記録)を提示し、司会の役割について考えさせる。
- 2 話合いの流れが変わる場面を止めて、司会の役割と発言について話し合う。
例えば、次のような場面を意図的に取り上げる。

高さん: 私は、全校生徒の投票演説から始めるのがよいと思います。出し物に合唱を選んでいる学校も多いので、声を出す練習にもなってよいと思います。

長井さん: 私は、実行委員長がスローガンを言うのがよいと思います。

山田さん(司会): 早川さん、雰囲気が高まっているので、歌奏楽部の演奏で始めるのがよいと思います。

教師: 異なる意見が出ていますが、あなたが司会ならどのように進めますか。
- 3 司会の役割をまとめる。
司会がどのような発言をするかによって、話合いの流れが変わります。司会の役割を踏まえた上で、状況に応じてどのような発言をするべきかを具体的に考えて、話合いを進めることが大切です。

(まとめの板書例)

⑤ 「……については……する」と決まりました。

④ 「それだけの意見は比較・検討する場所と所があります。」

③ 「……の意見を比較・検討する」という意見は、他の意見と異なる点があります。

② 「○○さんが……と考えているのはなぜですか。」

① 発言の内容を整理する

司会の役割と具体的な発言例

本授業アイデア例 活用のポイント

- 話合いには、意見を広げる場合や意見を一つにまとめる場合などがある。その話合いの目的に応じて方向を捉え、司会の役割を考える必要がある。
 - ・ 意見を広げる題材の例
 - 「身近でできるボランティア」
 - 「身近な言葉遣いの改善点」など
 - ・ 意見を一つにまとめる題材の例
 - 「修学旅行のグループ別コース」
 - 「学級文集のテーマ」など
- 話合いの動画は、日常の学級活動や委員会活動での話合いを記録したものを活用することが考えられる。また、教師が作成したシナリオを生徒に演じさせたものを録画して活用してもよい。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く

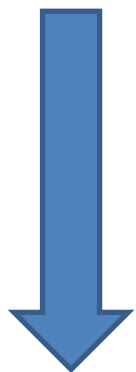
〔2一〕(府の正答率 24.0%、全国の正答率 24.8%)

○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える

〔2二〕(府の正答率 75.3%、全国の正答率 74.5%)

○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く

〔4四〕(府の正答率 72.4%、全国の正答率 71.9%)



解説

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと〔2一〕について、24.0%と低い正答率であった。特にAに対する答えは正解しているが、Bに対する答えが誤答である生徒の割合は38.7%と高い。これは、具体例が根拠になるということの理解がなかったことが考えられる。また、〔4四〕ではメール文が問題として提示されており、〔2〕の問題と同様、これからの情報社会に対応していくことが必要である。

授業改善のポイント

◎ 構成の検討について

段落に文章全体の中でどのような役割をもたせるのか考えさせるよう工夫することが必要である。

◎ 考えの形成、記述について

根拠の適切さを考える機会を設けることが必要である。そのために、以下の例(平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 令和元年9月 授業アイデア例)のような資料が根拠としてふさわしいかどうかの交流をするなどの授業が考えられる。

また、自分の考えが相手に伝わる文章になるよう工夫することが必要である。例えば、学級内でメール文での情報伝達をするなどの工夫が考えられる。

4 資料にある情報が、それぞれの伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについて、グループで助言し合う。

(ここでは、平成31年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③を例として取り上げて、その流れを示す。)



〔Aさんが伝えたいことの根拠についての助言の例〕

私は、意見文の中で、地域の店は必要であることを伝えようと思います。その根拠として、インターネットにはない地域の店の魅力の例を示したいのですが、「必要なものが近所で手に入る」と回答している人が最も多いので、この情報を用いて書こうと思います。

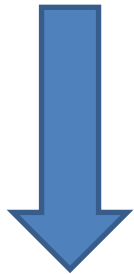
「必要なものが近所で手に入る」は72%の人が回答しているので、数値としては説得力があると思います。



足りなくなった文房具などもすぐに用意することができるので、「必要なものが近所で手に入る」というのは、本校の生徒も共感しやすいと思います。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

- ▲文脈の中における語句の意味を理解する
〔3一〕(府の正答率 42.0%、全国の正答率 43.7%)
- ▲場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する
〔3二〕(府の正答率 58.8%、全国の正答率 58.7%)
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する
〔3三〕(府の正答率 70.5%、全国の正答率 71.0%)
- ▲文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ
〔3四〕(府の正答率 22.7%、全国の正答率 20.5%)



解説

「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を下回っている。文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと〔3四〕については、22.7%と低い正答率である。特に、条件1について引用せずに解答している生徒が46.3%と高い割合であることが分かる。

授業改善のポイント

◎ 考えの形成、共有について

自分の考えを確かなものにするために、他者に自分の考えを説明したり、他者の考えを聞くなどして考えを広げたりするような工夫が必要である。

また、以下の例(令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例)のように叙述に即して読むことを授業に取り入れていくことも必要である。

③ 令和3年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③の【文章の一部】を読み、次の解答例について、根拠として考えられる叙述を各自でノートに書く。

【課題が見られた解答例】 ※ ここでは、解答類型4の典型的な解答例を示す。

「吾輩」は「黒」を少し見下して接している。このような接し方は相手に失礼だと思う。

皆さんの解答の中には、どこからそう感じたのかが分かりにくいものがありました。文章を読んで考えをもつ際には、具体的な叙述に基づいて考えることで、自分の考えが整理されたりより確かなものになったりします。例えば、この解答には「少し見下して接している」とありますが、どの叙述が根拠になると思いますか。

④ ③で書いたことをグループで交流する。

「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって」という叙述から、「吾輩」が「黒」を見下していると考えることができます。

私もそう思いました。他にも、「へえ、なるほど」と、あいづちをうつ。」や「無学の黒」などという表現も「見下して接している」と考える根拠になるのではないのでしょうか。

「無学の黒」という部分は、確かにそうですね。しかし、「へえ、なるほど」と、あいづちをうつ。」という「吾輩」の行動が、なぜ「黒」を見下していることになるのでしょうか。むしろ、「吾輩」は「黒」に共感していると受け止めるべきではないのでしょうか。

その部分だけを見ると共感しているとも言えますが、「うまくやったね」と喝采してやる。」など、「吾輩」と「黒」の一連の会話と結び付けて考えると、「見下して接している」と解釈することもできます。

「吾輩」が「黒」を見下していることが分かる叙述は、一箇所だけでは限らないですね。また、一つの叙述だけでなく、複数の叙述を結び付けて考えることも大切ですね。

中学校 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

問題〔4一〕〔4二〕〔4三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎漢字を読む(伸ばして)

〔4一①〕(府の正答率97.8%、全国の正答率97.5%)

◎漢字を読む(詳細)

〔4一②〕(府の正答率87.5%、全国の正答率88.8%)

○事象や行為などを表す多様な語句について理解する

〔4二〕(府の正答率75.0%、全国の正答率74.0%)

▲相手や場に応じて敬語を適切に使う

〔4三〕(府の正答率41.2%、全国の正答率40.3%)



解説

漢字や、多様な語句の理解について、全国平均とほぼ同等の正答率である。相手や場に応じて敬語を適切に使うことについては、全国平均は上回っているが、41.2%と低い正答率である。

授業改善のポイント

◎ 言葉遣い

単に敬語の種類を覚えるということではなく、敬語の特徴や効果、働きなどについて気付かせる授業の工夫が必要である。